
ガラスの玉ねぎ ビートルず半可通

村上サガン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガラスの玉ねぎ ビートルズ半可通

【Nコード】

N2063T

【作者名】

村上サガン

【あらすじ】

ビートルズ ノルウェイの森 などが からむ

気まぐれ駄文です。

グッドナイト

大学一年の頃ロッククラブに入部しようと

音楽関係のクラブが10以上並ぶ文学部エリアの隅にある部室棟に向かった。

近づくともトランペットやトロンボーンの音が聞こえてきた。

高校の音楽部でロックバンドを作りたくて

先生と口論になったが、

進学校の壁は音楽スタジオの部厚いドアのままだった。

大学入ったらロックをやるぞ、高校ではピアノだけでビートルズを部員と歌っていた。

あれからX十年過ぎた。

テレビ画面に映画「レット・イット・ビー」があらわれた。スパイダーズかまやつさんがナレーションしている。

「ビートルズはクラシックになったと言われますね。

3大Bつまりバッハ、ベートーベン、ビートルズ・・・」

ジョージハリスンがポールと口論して脱退してしまう。

脱退から復帰したばかりのリンゴスターもやる気ない。

ジョンレノンもヨウコに逃避してポールに解散だと警告している。

ポールも解散の危機感を感じているが天才ゆえの凡人への配慮がない。

モーツアルトと同じ二オイがする。

最初に映画館で観たことを思い出した。

1日映画館を出られなかった、帰りたくなかった。

あの頃、まさか映画でビートルズの解散が進行しているとは
気づきもしなかった。

映画では解散のドラマが始まっていたのだ。

ドラマが終わったテレビの余韻に浸りながらエスプレッソを飲んだ。

パソコンの画面に向かってビートルのショート会話を入力した。

「なぜ、彼らが他の音楽家やバンドよりスゴイのかというと・・・」

「曲がほとんど自作自演だから？」 直子がすぐに答えた。

「それだとポールサイモンとか他にいるだろ。
5名もいるんだ」

「5名？」

「ああ、ヒットメーカーが4名とアレンジの神様ジョージ・マーティン。」

恐ろしいほどの集団パワーだ。

相乗効果も尋常じゃない。

ヒット曲の作成量は他よりは5倍のパワーがある

これは音楽史上、奇跡だと言われている」

「へえゝ なるほど」

直子にはどうでもいいのだろう、そんなこと。
猫のような目線で他のことを考えているように思えた。

「そうだ。」

なんか変わったビートルズの曲はある？」

また、はじまった気まぐれ加減。

「映画音楽のような曲があるよ。
題名はグッドナイト」

GOOD NIGHT (The Beatles)

バンガロー・ビル

文学部エリアの隅にある部室棟

スキンヘッドのサンプラザ中野、

3小（デーモン小暮閣下、小田和正、小室哲哉）、ナベサダこと渡辺貞夫

みんな部室棟の入口をくぐったのだろうか。

大学の公認のロッククラブは唯一「ナレオ」だけだった。

前身はナレオ・ハワイアンズとして

プロとして活動していた。

クラブ入会の見学、

上京して高校生が抜け切れない頃ときめいた。

長い廊下を進み、

左側は窓、右側に部室が並ぶ、4つ目だっただろうか。

「ザ・ナレオ」と書かれたドアを開ける。

部厚い防音用のドアだ。

部室は各々スタジオになっていて、

ドア開けるといきなりブルスロックの轟音が飛び込んできた。

二軍の練習中であつた。

ブルス（管楽器）とロックバンドの編成で

ライトハウスの「One Fine Morning」だった。

ブルスがからむ軽快な曲だ。

ナレオはプロ野球と同じように三軍制になっていた。

一軍はTBSテレビに出演していた。

変な夢を見た。

教壇に立って講義しているのだ。

講座は「ビートルズを知らない方へ」

「えゝ 前期と後期に分けられると思います。
料理で言うと

前期はスナック、お茶漬けさらさら。

後期はフルコースのような感じでしょうか。

前期は単純で軽快なヒット曲で

ヒットチャートを独占したこともあります」

教室はシーンとしている。

誰も聞いていない。

見渡す限り人はいない。

「えゝ 後期は、新しいロックを模索し音楽芸術をめざしますね。

アルバム「ラバーソウル」「リボルバー」で実験して

最高傑作「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・
バンド」に到達するわけです。

クラシック、ジャズなどいろんなジャンルを採り入れていきます。

理由は人気が過熱して

警備不可能になりライブができなくなった。

スタジオに籠り、サウンド作りのみに集中していく結果
音楽が芸術の方向へ進んでゆきますね。

ジョージ・マーティンが拍車をかけてゆく。

彼は5人目のビートルズと言われている。

オーディションに不合格のビートルズ採用したのも彼である。

「インマイライフ」バロック音楽風のピアノソロは彼が弾いています。

「ペニー・レイン」ピッコロ・トランペットのソロ。

「ストロベリー・フィールズ・フォーエバー」

テンポもキーも違う二つの曲の融合。

ビートルズサウンドの取りまとめ役なんですネ。

さて ビートルズのファンでは前期を好きな人が多くて

後期の曲にはついてゆけないファンが多いですね。

リングは初期のサウンドが好きだったようです。

ジョージ・マーティンとポールは後期では独走する。

ポール同様にマーティンも

他の3名から嫌がられます。

わたくしは前期後期の両方好きだが

後期の作品は詩も哲学的だし、

曲も複雑で何回か聞かないと味がでないものが多い。

前期の作品だけなら

ローリングストーンズやその他ロックグループと同じ存在だが
ビートルズがクラシックとなったのは後期にあるといえます」

突然直子が現れた。

「もついい。」

次の変り種ビートルズは？」

「ヨウコさんが歌っている
バンガロー・ビル。」

ビートルズ作品で唯一の女声リードヴォーカルさ」

ザ・コンティニューイング・ストーリー・オブ・バンガロー・ビル

ノルウェイの森

トオル

「ビートルズの『ノルウェイの森』は
ナンパに失敗した歌なんだ」

直子

「へえー そうなんだ」

トオル

「有名な話しだけど

歌の英語タイトルは Norwegian Woodで

ノルウェーの家具

誤訳なのか洒落で訳したかわからないが、

家具を森と訳したようで

話しはジョンがナンパした女性に拒絶されて、

彼女の家に置いてけぼりにされる。

腹いせに暖炉に火をくべて、

彼女のお気に入りノルウェー製家具を燃やしてしまうのさ」

直子

「
．
．
．
．
」

それは．．．．

私が置いてきぼりに されたのよ。

ねえ そうじゃない？
「

Yesterday

直子「ねえ、ビートルの歌はなぜ人気があるの」

トオル「そうだね、ポールとレノンの才能だね。」

この二人、とてつもない愛に飢えたパワーを持っているんだ。

二人とも幼少から母がいない。

ポールの母は乳癌死で、レノンの母は彼を捨ててしまった」

直子「フロイトのリビドーってやつね」

トオル「そうだ。「愛の飢え」というやつ。

この欲求が恐ろしいパワーを持つ心的エネルギーになるんだ。

人間の性を非常にバラエティに富んだ物へと向ける本質的な力だね。」

母をテーマにした歌が二人には多いよ」

直子「今日は何を聞かせてくれるの?」

トオル「ポールがつくったイエスタデイ」

直子「ビートルズの弦楽四重奏の三部作ね」

トオル「うむ。 ポールの曲だ。」

この曲のエピソードを箇条書きにしたよ」

Y e s t e r d a y

1・ポールが乳癌で死んだ母への思いをこめた曲

2・B面の曲

録音もポールがギターを弾きながら弦楽四重奏を相手に行っていて、

ジョンレノンもジョージもリンゴも介在していない。

そのために余興としてB面に収められた。
それが大ヒットする。

ポールがひとりで演奏して録音する行為が解散のひとつの原因。

3・仮タイトルは「スクランブルエッグ」

ポールは曲を作ってからあとで詩をつけるタイプ。
イエスタデイのメロディが夢の中でできたときに、
間に合わせの仮の歌詞として、
スクランブルエッグの作り方を歌詞にのせた。
イエスタデイの仮タイトルは「スクランブルエッグ」。

4・世界で最も多くカバーされた曲（ギネスブック認定）。

僕の母は洋子〜ジョンレノンの母うらみ節（１）

僕の母は洋子

トオル「レイコさん、ジョンレノンの歌は母のうらみ節なんですネ」

レイコ「そうなの。どうして捨てたんだ。

歌詞には、母へのうらみがつらつら書かれている。

ジョンは母の歌を好まないみたい。

ビートルズ時代にジョンが作った母の歌に『ジュリア』があるの。

ジュリアは母の名前だけど。

幼いときにジョンを捨てて再婚して、

ジョンが１７歳の時にジュリアは交通事故で死亡した。

この歌は思うに母の名を借りて小野洋子を母だと思っている

そんな歌になっていると思うの。

母への恋慕を洋子さんで埋めようとしている感じね。

洋子さんのそこが魅力なのよ。

日本女性って母に近い愛情があるのよ。

歌詞で出てくる

オーシャンチャイルド 〃 洋子 という説が有力ね」

〃 〃 〃

「ジュリア」以下のYouTubeで

<http://www.youtube.com/watch?v=ssQ7WlVE7F8A&feature=related>

ed

ジョンレノンの母うらみ節（２）　僕はあなたを捨てたかった

トオル「ジョンレノンは母への本当の思いを歌にぶつける」

レイコ「ビートルズ解散した後に、

幼児期のトラウマを掃き出せばとヨウコさんが助言するのね」

「すさまじい幼児期ですね。

生まれてすぐ、父は行方不明。

母はジョンを姉にあずけて、再婚してしまう」

母への恨みは自分の子供を

自分が育てることに専念することで見返そうとしますね。

俺は自分^{ジョン}の子供を捨てないと

ムキになっている」

以下　歌「マザー」（母へのうらみ節）

歌詞

お母さん　僕はあなたのものだったけど

あなたは僕のものではなかった

僕はあなたを求めたけれど

あなたは僕を求めなかった

あなたは僕をすてたけれど

僕はあなたをすてられなかった

こどもたちよ

僕の失敗を繰り返さないで

僕は歩けないのに

走ろうとしたんだ

http://www.youtube.com/watch?v=
eDvkwl6aJo&feature=playe
r|embedded

ジョンレノンの母うらみ節(3) イチゴ畑はない

トオル 「ストロベリーフィールズフォーエバーが

ビートルズ時代で彼がつくった曲では

傑作かもしれない」

直子「ああイチゴ畑ね。」

ニューヨークにストロベリーフィールズという

ジョンレノン記念碑があるわね」

トオル「あれはイチゴ畑ではないんだよ

モデルはリヴァプールにある戦争孤児院の名前なんだ」

直子「へえ、そうなんだ」

トオル「その孤児院は、もうないが跡地へのレノン巡礼が多いよ」

直子「なんか曲は幻想的よね」

トオル 「あの頃流行のサイケデリックの最高傑作だよ。

曲が一端終わって

しばらくして始まる、あの最後がいい

(3分55秒頃から始める)

ギターとドラムがフェードアウトしていった。
そして曲終わったかと思いきや、オルガン(メロトロン?)の
不協和音がフェードインし、パーンパーンパーン...とギターが
鐘のように響き、またオルガンの不協和音と共にフェードアウ
トする

僕はあの鐘は鉄道の踏み切りの遮断機の警報音に聞こえる。

オルガンは列車の通る音だと思っている。

レノン生まれたときから父母がいなくて孤児院にいるんだが

その孤児院に帰っていく。

最後まで彼は

俺の居場所は孤児院だと主張しているんだ」

|| || || ||

ストロベリー・フィールズの歌詞の一部

一緒においでよ

ストロベリー・フィールズへ行くんだ

そこでは何もかもが幻

煩わしいものはひとつもない

目をつぶっていれば生きるとはたやすい

見るものすべてを誤解してしまうからね

出世するのは難しくなる一方だ

でもどうにかなるものさ

どっちにせよ僕にはたいしたことじゃない

僕と同じ木に登ってる人はいないみたいだ

つまり 高揚してしようと

落ち込んでしようと

君が共鳴することはできない

でも それでいいのさ

たぶん悲しむほどのことじゃない

これが僕だといつも

いや ときどき思う

けれど そうなんだ

それは夢かもしれない

YouTube

http://www.youtube.com/watch?v=J3jrWVp2L7U&feature=player_embedded

L e t I t B e 母が夢にでてきた

トオル 「ポールは一人で曲を作ってひとりで勝手に録音してしまっんだ」

直子「ポールって

楽器は なんでも器用に弾けるみたいね」

トオル「ギターはジョージなんかよりウマイし

ドラムも叩ける。

それでリンゴとジョージの演奏にケチをつけるんだ。

<バック・イン・ザ・USSR>では
リンゴのドラミングをあからさまに批判し
リンゴは一時的にグループを脱退してしまう。

だから<バック・イン・ザ・USSR>
と<ディア・プルーデンス>で
ドラムを叩いているのはポール。

そしてジョージもポールの批判で一時ビートルズを脱退する」

直子「へえ」

トオル

「それで だんだん天才ポールも落ち込んでゆく。

彼の手記によると

とても大変な時期だった。

ジョンはずっとヨーコと一緒にだし、僕らの関係は崩れ始めた。

ジョンと僕の間はとても緊迫していたね。

ビートルズの崩壊が目前に迫って、

僕は恐怖におののいていた。

こんな緊迫した時期に、

ある晩、夢におふくろが出てきたんだ。

おふくろは僕を元氣付けてくれた。

夢の中でおふくろは「大丈夫」と言ってくれたんだ。

「Let It Be」という言い方だったかどうか覚えて

いないけど、

彼女のアドバイスの要点はそういうことだった。

「心配しなくていいのよ。すべて上手くいくから」と。

神の恵みとも思える夢だった。

それで出来たのが「Let It Be」。

“Mother Mary”とおふくろの名前で始まるだろう。

“When I find myself in times of
trouble

(トラブルを抱えているときに)”

とはまさに僕の状況だった。

「Let It Be」の歌は

おふくろの夢が基になってるんだ。

Hey Jude、頂点に立った時、別れがはじまる

ヘイジュードにまつわる半可通（知ったかぶり）その1

トオル「僕は4人の中で性格はわからないけど、

ポールの作った曲が好きなんだ」

直子「え！ ということ？ 曲はジョンとポールの合作なんでは？」

トオル「いくつか合作はあるけど、ビートルズが解散して

どちらが作った曲なのか、はつきりさせたんだ」

直子「そうなんだ」

トオル「ビートルズの歌で一番売れた曲を知っているかい？」

直子「それはヘイジュードでしょ」

トオル「そうだよな、有名な話だね。

ビートルズのシングル部門で一番売れたのが「ヘイジュード」

Y e s t e r d a y , M i c h e l l e , L a d y M a d o
n n a , G e t b a c k ,
T h e l o n g a n d w i n d i n g r o a d , L e
t i t b e

その他数々のヒットソングはポールの単独作品。

最初はジョンの方がポールよりヒットソングを出していたが

だんだんにポールの実力というか天才でジョンを追い抜いてゆく。

ジョンが嫉妬を感じるようになる「

Hey Jude、ジョンの息子の

ポール 「当初のタイトルはヘイ・ジュール。

ジュールはジュリアンの愛称さ。

最初はヘイ・ジュールって歌っていたが、

ある時ヘイ・ジュードって間違って歌って、

この方が感じが、いいなと思って、ヘイ・ジュードになった。

僕はジュリアンがわが子のように好きだった。

ジョンがジュリアンの母と離婚が決定して、

ジュリアンが落ち込んでいたので、

彼の誕生日に送った曲なんだ。

歌詞をみればわかるだろう」

歌詞の一部（筆者意訳）

ヘイ ジュリアン

悪く受け止めるんじゃないよ

悲しい歌も とり方によっては

良い方向に 向かっていると思えるようになる・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2063t/>

ガラスの玉ねぎ ビートルず半可通

2011年11月4日16時23分発行